

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答数は全体的に本市の平均と同率である。話すこと・聞くことの領域と読むことの領域に比べて、書くことの領域に課題がみられる傾向がある。
	よくできた問題	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる問題の中でも質問した理由として、適切なものを選択する内容。
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題の中でも空欄に適切なものを選択したり、問題点と解決方法を書く内容。

算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答数はやや下回る傾向であるが、図形領域やデータ活用の領域では全国平均に限りなく近づいている傾向がみられる。
	よくできた問題	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の中でも選んだだけを書く内容。
	努力が必要な問題	伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することができるかどうかをみる問題の中でも重さを問う内容。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館、学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか」の問いに「だいたい週に4回以上行く、または週に1～3回行く」と回答した児童の割合が全国平均を上回る結果であった。このことは令和5年度のスクールプランにも掲げている「身近に本、気軽に読書」の合言葉を学校全体で意識している表れである。</p> <p>○全体的な傾向として、自己有用感が低い傾向がみられる。「自分によいところがあると思いますか。」の問いに対して、56%の児童があると回答しているが全国平均よりは大きく下回っている。しかし、「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童の割合は96%と高い割合が出ているということは、志や思いは高いものをもっているため目標に近づける自分になれるよう、学校や家庭において読書ができる環境であったり、自分の良さが発揮でき、認められる場を今後とも設定していく必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 今後ともICT等を活用して、基礎基本の定着と向上を図る。
- 各授業において、図表やグラフ、文章など、複数の資料から必要な情報を見付けたり、自分の考えが伝わるように表現の仕方を工夫しながら書くことができる場を位置付けるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の指導・支援や読書習慣の啓発を行う。（学校通信、学年通信、ホームページ等）